

20. 日本における甲状腺 ^{131}I 治療の遠隔成績

阿武保郎 中村 良文 岩元将秀
竹下昭尚 佐々木 昶
(鳥取大学 放射線科)

日本国内7500例の治療個人票を収集し、治療後悪性腫瘍の発生を調査した。また治療後1年以上経過し、しかも甲状腺吸収量を推定しうる1124例について、遠隔成績を追跡した。1956年より1967年までの12年間の5施設におけるこれらを基礎として、その間の全国57施設の ^{131}I 治療約6000例についての遠隔成績および治療後における悪性腫瘍について報告し、悪性腫瘍と、本治療との関連性についての考察をのべる。

質問： 兵頭 春夫(愛媛県立中央病院 放射線科)
講演のなかで 7000 rad に目標をおくと、機能低下症が可成りみられるような結果と受取りましたが、適当な投与量の目標に何 rad の照射を目標にされていますか。

答： 佐々木 昶(鳥取大学 放射線科)

以前は、7000 rad を目標としたこともあるが、現在は 6000rad を目標としている。

質問： 難波 経雄(岡山大学 第1内科)

集計の中に ^{131}I 治療後甲状腺癌発生が3例うかがわれますが、これらの症例は ^{131}I 治療以前には癌の存在がうかがわれなかったのでしょうか、または ^{131}I 治療によって発生したと考えられるのでしょうか。

質問： 駕海 良彦(広島県立日 赤放射線科)

① Thyroid cancer は、clinical に所見が出て来ないで、laten に micro の cancer があり、病理診断では従来のように1つのブロックで標本を作るのは不十分で連続切片を作って診断すべきだという意見もある。

そこで、この甲状腺癌も治療前に latent に存在していた可能性もある。

② 胃癌が10例いるが、経口投与と関係はないが、日本人の胃癌発生頻度が高いので統計的には意味はないといつてよいか。

答： 中村 良文(鳥取大学 放射線科)

① これらの症例については ^{131}I 治療以前の発生の有無について詳細に検討されていないが、九田外科等の報告にもあるごとく甲状腺機能亢進症にもかなりの率で潜在性の癌の存在することが明らかであるし、 ^{131}I 治療後比較的早く癌の発生しているものもあることから ^{131}I 治療と無関係に以前より潜在性に存在していたものと決定される。

② 充分検討していません。

*

21. 悪性リンパ腫の Endolymphatic radiotherapy

入野 昭三 丹治 為世
宇野潤一郎 岡 瞭
(岡山大学 平木内科)

私達は悪性リンパ腫治療の一環としての ^{131}I -Lipiodol のリンパ管内注入療法の意義を明らかにすべく研究を行っている。

現在まで10症例の悪性リンパ腫患者を対象に足背部より ^{131}I -Lipiodol 20~50mci 注入を行ない、経時的にX線撮影、スキヤニング、シンチカメラなどによる追跡および臨床的経過観察を行なった。その結果、全例に著明なリンパ節縮小効果が認められ、延命効果については10症例中4名が死亡し6名が存命しており、その死亡した個々の症例についての検討を行なった。

本法は他の化学療法、放射線照射療法と併用するため、延命効果については、多数の症例についての検討を必要とするが、現在生存6例あり、 ^{131}I -Lipiodol 注入はいわゆる Combination therapy の1つとして極めて有用であると考ええる。

質問： 兵頭 春夫(愛媛県立中央病院)

悪性リンパ腫の化学療法で、ブレオマイシンを併用すると、肺線維症のために死亡する症例を散見しますが、やはり使用した方がよいとお考えでしょうか。

他の化学療法剤(例えばビンクリスチン等)との併用の優劣はいかがでしょうか。

答： 悪性リンパ腫で ^{131}I -Lipiodol 注入療法を行なう場合、特に有効性が認められるのは、そ径部、腸骨部、後腹膜リンパ節腫大のある場合特に有効でリンパ節縮小効果が著明ですが、頸部などのリンパ管造影で ^{131}I -Lipiodol の到達しにくいところでは、BLM等の化学療法の併用が望ましいと思います。

*

22. CPBA による血中 cortisol 測定法の検討

大藤 真 高原二郎 細木秀美
(岡山大学 第3内科)

今回、われわれは steroid 結合蛋白として最も多く用いられている人血漿、および容易に且つ大量に pool で